

青い栞

「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」 OP

なん
何ページもついやして 綴られた僕らの気分
どうしてか 一行の 空白をうめられない

お ばな しおり きみ ころ つか す じてんしゃ
押し花の栞はさんで 君と転がす使い捨ての自転車
わす れんが つ あ
忘れかけの煉瓦を 積み上げてはくずした

イコールへとひきずられていく こわいくらいに 青い空を
あそ ぼく おも だ
遊びつかれた僕らは きっと 思い出すこともない

そうやって今は僕の方へ 押しつける 陽射しの束
まだ二人はすぐそこにいるのに「どうかまた会えますように」なんて
どうかしてるみたい

いち
一ページめくるてのひら くちびるで結んだミサンガ
ねえ 今朝も 変わらない 今日で 雨ふれば 電話もできるよ
そうやって今は君の方へ (いつのまにか切れたミサンガ)
お ぼく やさ い
押しつける僕の優しさを (でもなぜか言えないままだよ)
ほんとう
本当どうかしてるみたい

ひと おと こわ
どれか一つをえらべば 音をたてて壊れる
それが愛だなんて おどけて 君は笑ってた

ま あ まち し ねむ
間に合ってよかった 街は知らないふりをきめて眠った
わす れんが つ あ ばしょ
忘れかけの煉瓦を 積み上げた場所にゆこう

うみ みわた さか あお そら
海を見渡す坂をかけのぼって こわいくらいに 青い空と
みぎて ひだりて きみ
右手にサイダー 左手はずっと君をさがしている

そうやって 塞いだ両の手で 抱きしめている 春の風
まだ時間は僕らのもので「いつか、忘れてしまう今日だね」なんて
い
言わないでほしいよ

そうやって”今”は僕の方へ問いつめることもなくて
まだ二人はすぐそこにいるだろう「そうだ、空白を埋める言葉は」
いや、まだ言わないでおこう

一ページめくるてのひら くちびるでほどいたミサンガ
始発電車まばらな幸せ ねえ、今日も変わらない今日だ

本当どうかしてるみたい